

埼玉県学力・学習状況調査（中学校）

復習シート 第二学年 国語



組	番号	名前

【文章の構成や論理の展開について読む問題】

1 次の文章は、小鳩さんが書いた意見文です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

現在、私達の生活は、人工知能（AI）などの急速な発展により、便利で快適なものになりつつある。離れた場所でもリモート操作やコミュニケーションが可能になり、携帯端末を通して、情報が瞬時に確認できたり、リアルタイムに仲間とのやりとりができたりすることが日常になってきている。また、端末に話しかけることで、調べたいことをAIに代替させて、多くの情報を収集することが容易になってきていることも周知のことである。

このような技術革新は、一体どこまで進んでいくのだろうか、便利な生活に対する驚きや感動があふれる一方で、AIが私達の生活の大部分を代替してしまってもいいのだろうかという疑問さえ覚えてしまう。（ア）

先日、私は、あるHPに掲載されていた一枚の絵に釘付けになった。それは、一八三九年に描かれたフェルディナンド・ゲオルグ・ヴァルトミュラーの作品『磁器の花瓶の花、燭台、銀器』である。今にも花の香りが漂ってきそうな、立体感のある花の絵で、花瓶や銀器も精巧に描かれていることが画面からも伝わってきた。私は、本物を見てみたいという思いが次第に高まっていった。

かつて、この絵を所蔵していたのは、リヒテンシュタイン公国という国である。世界で唯一、侯爵家（君主）の家名が国名となっている。アルプスの麓にある小さな国ながら屈指の豊かさを誇り、その美術コレクションは宝宝箱にもたとえられるほどである。それらの作品は、現在、オーストリアの首都ウィーンに所蔵されているが、日本でも、期間限定で数か所の美術館に作品の一部が展示されることになったのだ。

実際に美術館に入ってみると、その絵にたどり着くまで、多くの作品が展示されていた。まず、目に飛び込んできたのが、ヨーゼフ・ノイケバウアー作の『リヒテンシュタイン侯フランツ一世、八歳の肖像』である。ブロンズの長い髪、澄んだ瞳、そしてその満ち足りたような表情から、華麗なる生活をしてきたのだと想像できた。また、八歳のフランツ一世と今にも会話ができそうな、そんな不思議な感覚さえあった。

次に、私が足を止めた作品は、あの絵の作家ヴァルトミュラーが描いた、『イシユル近くのヒュッテンエック高原からのハルシュタット湖の眺望』である。湖の奥にたたずむ山に柔らかな太陽の光が当たっているその美しさに、ヴァルトミュラーも心を動かされたのだろうと思えた。また、手前で眺めている人達の衣装から、描かれた時代の生活を想像することもできた。（イ）

そして、待ちに待ったあの花の作品の前に立った。やはり、本物の迫力は想像以上のものだった。近くで見たり、少し離れて見たりして、多くことに気付き、想像することができた。花々が活けてある花瓶は、日本の焼き物だったということ。銀器の装飾まで

細かく描かれていたこと。手前にあつたテーブルクロスが今にも動きそうだったこと。そして、背景を黒くしたからこそ花が浮き出て見えるということ。さらに、実際の背景は、どんな様子だったのだろうかという思いを巡らせることもできた。私は、一つの芸術作品から、こんなにも多くの気付きや想像ができたことに驚きを感じた。それと同時に、想像力は、時間や空間を超えて、人と人をつなげることができるとはなかった。感じた。

多くの情報を正確に処理するAIの能力に、人間が適わなくなる時代は、もう目の前に来ている。しかし、それぞれの情報から想像を膨らませ、新たな発想につなげる作業は、AIには代替しきれないことであり、そうあつてはならない場面も多くあるに違いない。（ウ）

便利さを追求する時代に人間らしく生きていくためには、これまで以上に想像力を働かせることが大切である。そのためには、実際に見たり触れたりする実体験も欠かせない。今後も、AIに任せる作業と私達自身が行う作業とをきちんと見極めていくことのできる想像力を働かせていくことが重要であると考える。（自作）

問一 この文章を「序論」「本論」「結論」に分けるとき、「本論」と「結論」の初めの三字を書き抜きなさい。**レベル9**

「本論」

「結論」

問二 次の文を文章に加えるとしたら、どの部分が最も適切ですか。（ア）～（ウ）の中から一つ選びなさい。**レベル7**

想像することは、人間ならではの喜びであり、尊さでもあるからだ。

--

問三 この文章で、小鳩さんが一番伝えたかったことは何でしょうか。次の1～3の中から最も適切なものを選びなさい。**レベル7～10**

- 1 調べたいことをAIに代替させて、多くの情報を収集すること
- 2 美術館に行き、絵を見ること
- 3 人間らしく生きていくために、想像力を働かせていくこと

--